

# モジュール利用方法説明資料 (PHP版)

作成日 2018年 9月 19日 第 3.8 版



## 変更履歴

版数	作成/更新年月日	変更内容
1.0	2007/07/19	新規作成
1.1	2007/07/25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「接続モジュールの利用手順(サンプル)」の「②クライアントへの要求をセット」でメソッド名“reqPuts”を“reqPut”に修正。</li> <li>・「接続モジュール(クライアントB2Bモジュール) 機能で使用するクラスについて」の必要環境の記述に、Log4phpに関する記述を追加。</li> </ul>
1.2	2007/08/03	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「接続モジュール(クライアントB2Bモジュール) 機能で使用するクラスについて」の必要環境の記述から、Log4phpに関する記述を削除。</li> <li>・「設定ファイル」の「ログ出力先」の「項目定義」に説明を追記。</li> <li>・「接続モジュール(クライアントB2Bモジュール) 機能で使用するクラスについて」の動作確認済みバージョンを記述。</li> </ul>
1.3	2008/06/04	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「接続モジュールの利用について」のメソッド名の誤りを訂正。</li> </ul>
1.4	2008/07/04	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロパティファイル隠蔽対応。</li> </ul>
1.5	2009/03/19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「接続モジュールエラーコード表」のE02002に対する重複した説明文を削除。</li> </ul>
1.6	2009/05/01	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数レコード単位の結果取得時に関する誤植を修正。</li> </ul>
1.7	2009/06/05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定ファイルに関する記載を修正。</li> </ul>
1.8	2010/03/08	接続モジュール第1.7 版を元に ファイル伝送対応版1.0版制定
1.9	2010/11/12	設定パラメータについての記載を修正。
2.0	2011/03/29	OpenSSLについての記載を追加。
2.1	2011/04/05	設定ファイルの記入例について補足を追記。
2.2	2011/04/22	設定ファイルの記入例についてデバッグモードの記載を追記。
2.3	2011/04/25	「接続モジュールの利用について 設定ファイル項目」に「PayPal決済」を追記。
2.4	2011/11/09	「接続モジュールの利用について 設定ファイル項目」に「電子マネー決済」を追記。
2.5	2012/12/07	エラーコードE02002の発生条件変更。(電文サイズ:10240⇒102400、電文項目数:50⇒無制限)
2.6	2013/07/17	デバッグオプションが有効な場合に、カード確認番号はマスクが掛かった状態で出力するよう修正。
2.7	2013/10/04	サンプルコードに誤りがあったため修正
2.8	2013/12/02	OpenSSLのバージョン要件を変更。
2.9	2013/12/03	OpenSSLの再ネゴシエーションに関する記述を修正。
3.0	2014/11/04	マスク項目を追加。
3.1	2016/11/17	「接続モジュールの利用について 設定ファイル項目」の 「クライアント証明書ファイルパス」「認証済みのCAファイルパス」 「接続ID、接続パスワードが設定されない場合に使用されるデフォルト値(空白可)」 の説明文を修正。
3.2	2017/01/12	PHP 7系に対応。 「はじめに」を追加 「接続モジュールの利用について [ PHP (7系)版 ]」を追加
3.3	2017/06/28	3 - 接続モジュールの利用について [ PHP (7系)版 ] 「■接続モジュール用パラメータを設定ファイルに設定」にて ・「CD-Rを郵送する」旨の古い記述を修正。 ・接続ID、接続パスワードのデフォルト値について、参照先が 「試験環境登録情報.xls」「本番環境登録情報.xls」となっていた箇所を修正。 2 - 接続モジュールの利用について 「■設定ファイル」にて決済を追加
3.4	2017/10/11	「接続モジュールの利用について 設定ファイル項目」に「Paidy」を追記。
3.5	2018/05/21	設定ファイルの値について、サンプルである旨を明記。
3.6	2018/06/18	接続先URLに関する記載を廃止。モジュール利用時に接続先URLを意識する必要はありません。
3.7	2018/07/11	libcurlのSSL接続方式について追記。 OpenSSLのバージョンを1.0.1以上に修正。
3.8	2018/09/19	タイムアウト値のデフォルト値(35秒)を追記。

## 1 – はじめに

---

PHP版接続モジュールは、PHPのバージョン5系及び7系に対応しています。  
ご利用されるPHPのバージョンにより接続モジュールの利用方法が異なります。  
PHP 5系をご利用の場合は、[2 – 接続モジュールの利用について \[ PHP \(5系\)版 \]](#)をご参照ください。  
PHP 7系をご利用の場合は、[3 – 接続モジュールの利用について \[ PHP \(7系\)版 \]](#)をご参照ください。

## 2 - 接続モジュールの利用について

[ PHP (5系)版 ]

## ■ 接続モジュール(バイジェントB2Bモジュール)機能で使用するクラスについて

接続モジュールを利用する場合、以下のクラスを使用します。

`jp/co/ks/merchanttool/connectmodule/system/PaygentB2BModule.php`

接続モジュールでは、cURL関数(※1)を使用しているため、以下の環境が必要です。

- ・libcurlパッケージがインストールされている必要があります。(※2)
- ・PHPのcURLサポート機能を使用するため、`—with-curl=[DIR]` をつけてPHPをコンパイルしておく必要があります。(※3)
- ・libcurlのSSL接続はOpenSSL方式を使用してください。(※4)

※1: cURL関連の関数は、PHP 4.0.2で追加された関数です。

※2: libcurl 7.0.2-beta以降を必要とします。

PHP 4.2.3以降の場合は、libcurl 7.9.0以降が必要です。

PHP 4.3.0以降の場合は、libcurl 7.9.8以降が必要です。

PHP 5.0.0以降の場合は、libcurl 7.10.5以降が必要です。

※3: DIRは、以下の条件をすべて満たす必要があります。

- ・libディレクトリ、includeディレクトリが存在する。
- ・includeディレクトリには、curlディレクトリが存在し、そのcurlディレクトリにはeasy.hファイルとcurl.hファイルが存在する。
- ・libディレクトリには、libcurl.aという名前のファイルが存在する。

※4: バージョンは「OpenSSL1.0.1」以上である必要があります。

PHP版接続モジュールは以下のバージョンで動作確認済みです。

5.3.29, 5.4.32, 5.5.30, 5.6.16 (OSはLinuxで確認)

サーバーに設定されているOpenSSLは再ネゴシエーションが可能である必要があります。

接続モジュールではクライアント証明書を利用した通信を行なうことで、セキュリティを確保しておりますが

OpenSSLのバージョンによっては、再ネゴシエーションが不可になっている場合がありますため、

クライアント証明書での通信において正常に通信ができない場合がございます。

バージョンは「OpenSSL1.0.1」以上である必要があります。

サーバー管理会社様で独自に設定されている場合もございますので、ご確認ください。

接続モジュールの設定、稼働順は以下の通り

どの電文種別IDにおいても、使用方法は同じ

No	設定、実行内容	クラス	メソッド	備考
	PHP環境設定	iniファイル	以下のディレクトリをinclude_pathに設定する。 ・jpディレクトリを配置したディレクトリ ・modenv_properties.phpを配置したディレクトリ	
1	モジュール用パラメーターの設定	modenv_properties.php	\$default_id \$default_password \$timeout_value	接続ID 接続パスワード セッションタイムアウト値
2	オブジェクト生成	jp/co/ks/merchanttool/connectmodule/system/PaygentB2BModule.php	\$p = new PaygentB2BModule();	コンストラクタ PaygentB2BModule オブジェクトを取得 No2以降は、このオブジェクトに対して、処理を実施する
3	オブジェクト初期化		\$p->init();	PaygentB2BModule オブジェクトを初期化 設定ファイルの読み込みなどを行う
4	処理結果CSVファイル名設定		\$p->setResultCsv("");	結果CSVファイル名 ※電文種別ID:027(カード情報照会)、電文種別ID:201(ファイル決済結果照会)の結果をCSVファイルに出力する場合に使用します。 ※エラーが発生した場合、結果CSVは出力されません。
5	要求電文用引数設定		\$p->reqPut(key, value);	key: POSTパラメータ名 value: 設定値 (外部インターフェース仕様書を参照ください)
6	要求電文用送信ファイルパス設定		\$p->setSendFilePath("");	送信ファイルのパス ※電文種別ID:200(ファイル決済要求)で使います。 詳細は下記「■ファイル送信について」参照。
7	要求電文 POST 処理		\$rsit = \$p->post();	要求電文を、URLに向けて実行

## 2 - 接続モジュールの利用について

[ PHP (5系)版 ]

No	設定、実行内容	クラス	メソッド	備考
8	応答電文 処理結果の取得	jp/co/ks/merchanttool/ connectmodule/system/ PaygentB2BModule.php	\$p->getResultStatus() \$p->getResponseCode() \$p->getResponseDetail()	0: 正常 1: 異常
9	応答電文 内容を取得 ※結果CSV指定ありの場合を除く		\$p->hasResNext();  \$res_array = \$p->resNext();	応答電文のレコード存在判定 true: 存在する false: 存在しない  応答電文のレコードを取得 array型 で返される key: パラメータ名 value: 値

## ■ 電文の結果取得種類

## ① 1レコード単位

1レコードをarrayとして返却する。1件のレスポンスしかない場合でも同様で、操作を統一する。

```
resNext()
hasResNext()
```

項目はarrayからキーを指定して取得する。

処理結果、レスポンスコード、レスポンス詳細はarrayに含めない。これらの値は、③の方法で取得する。

【注意】 電文種別ID: 201 (ファイル決済結果照会) はこちらの取得方法を利用できません。

## ② 複数レコード単位 (CSVファイル出力)

出力レコードが2レコード以上の場合、①の1レコード単位の取得はできない。

出力レコードが1レコードの場合は、①の1レコード単位の取得は可能とする。

【注意】 電文種別ID: 027 (カード情報照会)、電文種別ID: 201 (ファイル決済結果照会) のみこちらの取得方法を利用できます。

## ③ 処理結果取得

処理結果、レスポンスコード、レスポンス詳細は、それぞれgetterを用意する。

1レコード単位で取得した場合も、CSVファイル出力した場合も取得できる。

## ■ ファイル送信について

電文種別IDが200 (ファイル決済要求) の場合は、外部インターフェース仕様書に記載されている各項目を以下のように設定する。

- ・(共通ヘッダ項目) ... reqPut() により設定。
- ・取引種別 ... reqPut() により設定。
- ・取引ファイルデータ ... ファイルのパスを setSendFilePath に設定。

※接続モジュールをご利用の場合、上記のようにファイルパスを指定してのファイル決済が可能です。

取引ファイルデータには指定したファイルの内容が設定されます。

※お客様の環境によってはサーバの最大POSTデータサイズを変更していただく必要があります。

## ■ 接続モジュールの利用手順(サンプル)

## 前提

PHPの設定ファイル(iniファイル)のinclude\_pathに、以下の2つのディレクトリを指定してください。

- ・接続モジュールのphpソース(jpディレクトリ)を配置したディレクトリ。
- ・接続モジュールの設定ファイル(modenv\_properties.php)を配置したディレクトリ。

接続モジュールを使用する部分で、以下のクラスのinclude文を定義します。

```
include_once("jp/co/ks/merchanttool/connectmodule/entity/ResponseDataFactory.php");
include_once("jp/co/ks/merchanttool/connectmodule/system/PaygentB2BModule.php");
# 以下はエラーコードを参照する場合に必要
include_once("jp/co/ks/merchanttool/connectmodule/exception/PaygentB2BModuleConnectException.php");
include_once("jp/co/ks/merchanttool/connectmodule/exception/PaygentB2BModuleException.php");
```

## 2 - 接続モジュールの利用について

[ PHP (5系)版 ]

## ■ 接続モジュール用パラメータを設定ファイルに設定

設定ファイル(modenv\_properties.php)は試験環境用と本番環境用があり、それぞれの接続キットに含まれます。  
基本的な項目は配布時に既に設定されておりますので、下記例を参考に、  
枠線で囲まれている部分につきまして、ご利用の環境に合わせて設定してください。

- ※ ファイルパスは、ご利用の環境に合わせて任意の場所を設定してください。
- ※ ファイルパスの前後にはダブルクォーテーションやセミコロンなどの記号を付けないでください。
- ※ 以下に示す設定値はサンプルであり、実際のものと異なります。動作環境に合わせて書き換えてご利用ください。

modenv\_properties.php

```

###クライアント証明書ファイルパス
paygentB2Bmodule.client_file_path="/home/paygent/client_cert.pem"

###認証済みのCAファイルパス
paygentB2Bmodule.ca_file_path="/home/paygent/curl-ca-bundle.crt"

###プロキシサーバー設定(プロキシサーバーを使用する場合のみ設定)###
paygentB2Bmodule.proxy_server_name=
paygentB2Bmodule.proxy_server_ip=
paygentB2Bmodule.proxy_server_port=0

###接続ID、接続パスワードが設定されない場合に使用されるデフォルト値(空白可)###
paygentB2Bmodule.default_id=99999999
paygentB2Bmodule.default_password=abcde123

###タイムアウト値(秒)###
paygentB2Bmodule.timeout_value=35

###ログファイル出力パス###
paygentB2Bmodule.log_output_path="/home/paygent/connectmodule.log"

###デバッグオプション###
# 0:エラー時のみ出力
# 1:リクエスト/レスポンスをログ出力
# ※本番稼働時は必ず0を設定してください
paygentB2Bmodule.debug_flg=0

###最大照会件数(2000件がペイジェントシステムの最大値なのでそれ以上の値は無効)###
###ファイル処理結果取得(電文種別ID:201)の場合は関係ない###
paygentB2Bmodule.select_max_cnt=2000

###CSV出力対象###
paygentB2Bmodule.telegram_kind.ref=090,091
###ATM決済URL###
paygentB2Bmodule.url.01=https://module.paygent.co.jp/n/atm/request
###クレジットカード決済URL###
paygentB2Bmodule.url.02=https://module.paygent.co.jp/n/card/request
###コンビニ番号方式決済URL###
paygentB2Bmodule.url.03=https://module.paygent.co.jp/n/conveni/request
###コンビニ帳票方式決済URL###
paygentB2Bmodule.url.04=https://module.paygent.co.jp/n/conveni/request_print
###銀行ネット決済URL###
paygentB2Bmodule.url.05=https://module.paygent.co.jp/n/bank/request
###銀行ネット決済ASPURL###
paygentB2Bmodule.url.06=https://module.paygent.co.jp/n/bank/requestasp
###決済情報照会URL###
paygentB2Bmodule.url.09=https://module.paygent.co.jp/n/ref/request

```

- ・拡張子「.pem」のファイルを指定します。
- ・試験環境用は、ご案内します試験環境接続キット内にあります。
- ・本番環境用は、ご案内します本番環境接続キット内にあります。
- ・試験環境接続キット内の拡張子「.crt」のファイルを指定します。
- ・本番環境でも試験環境時と同じファイルを利用します。
- ・プロキシサーバーを利用する場合のみ設定してください。
- ・必要な情報はWEBで確認可能です。  
<https://portal.paygent.co.jp/n/manage-m/login.html>  
上記URLの【加盟店管理者サイト】にログインし、  
試験環境用は[システム設定 > システム接続情報 > 試験環境]  
本番環境用は[システム設定 > システム接続情報 > 本番環境]
- ・ファイル名まで指定してください。  
(ファイルパス、ファイル名は任意です)
- ・ファイルは指定されたファイル名で自動作成されます。  
※事前に作成する必要はありません。  
※EC-CUBEご利用の場合は、DATA PATH/logs内のログと  
ファイル名が同じにならないようご注意ください。  
(保存ディレクトリが別であれば問題ありません)
- ・本番運用では0を推奨します。  
リクエスト/レスポンス情報をログに出力する場合は1を設定します。  
※ただし、カード確認番号・カード番号はマスクが  
掛かった状態で出力されます。

## 2 - 接続モジュールの利用について

[ PHP (5系)版 ]

## ① 接続モジュールのインスタンス取得 (コンストラクタ)と初期化

```
$p = new PaygentB2BModule();
$p->init();
```

## ② ペイジェントへの要求をセット

※ 電文に必要な要求情報を設定 (要求に必要なパラメータをハッシュにして設定)

```
$p->reqPut("telegram_kind", "010");
$p->reqPut("telegram_version", "1.0");
:
:
```

電文種別ID:200 (ファイル決済要求)の場合は、送信ファイルパスをセット

```
$p->setSendFilePath("");
```

## ③ ペイジェントへ要求を送信

```
$result = $p->post();
```

## ④ 要求送信結果を確認

```
if(!($result === true)) {
    # エラーコード取得
    $errorcode = $result
    # エラー処理
    :
}
}
```

## ⑤ 要求結果を取得

処理結果取得(共通)

```
$resultStatus = $p->getResultStatus(); # 処理結果 0=正常終了, 1=異常終了
$responseCode = $p->getResponseCode(); # 異常終了時、レスポンスコードが取得できる
$responseDetail = $p->getResponseDetail(); # 異常終了時、レスポンス詳細が取得できる
```

- ・ 1件取得の場合

```
if($p->hasResNext()) {
    # データが存在
    $res_array = $p->resNext(); # 要求結果取得
    $payment_id = $res_array["payment_id"]; # 決済ID取得
    # 他、応答情報を取得
}
```
- ・ 複数件取得の場合

```
while($p->hasResNext()) {
    # データが存在する限り、取得
    $res_array = $p->resNext(); # 要求結果取得
    $payment_id = $res_array["payment_id"]; # 決済ID取得
    # 他、応答情報を取得
}
```

【注意】 電文種別IDが201 (ファイル決済結果照会)の場合はこちらの取得方法で値を取得することができません。

- ・ CSV出力の場合  
モジュールパラメータの結果CSVファイル名を指定していた場合は指定したパスにファイルが出力されています。

## 2 - 接続モジュールの利用について

[ PHP (5系)版 ]

## ■ 接続モジュールエラーコード表

各種エラー	Error Level	Error Code	ErrorName	OutputTiming	ErrorMessage
PaygentB2BModuleException (各種エラー用Exception)	設定ファイルなしエラー	WARN	E01001	設定ファイルが存在しないエラー	init()時 Properties file doesn't exist.
	設定ファイル不正エラー	WARN	E01002	設定ファイルにおける設定値のエラー	init()時 Properties file contains inappropriate value.
	CSV出力エラー	WARN	E01004	CSV File 出力エラー	post()時、CSV File出力時 Failed to open CSV file.(ファイルオープン時) Failed to write to CSV file.(ファイル出力時)
	取引ファイルエラー (電文種別ID: 200利用時)	ERROR	E01005	取引ファイル入力エラー	post()時、取引ファイル読込時 Send file I/O error.
				取引ファイルに指定されたパスにファイルが存在しない	post()時、取引ファイル読込時 Send file not found.
その他エラー	WARN	E01901	応答電文の内容解析時等	post()時、応答電文内容解析時等 Not Mutch DataHeaderCount=[XX] DataItemCount:[XX](レコード数不正時)	
PaygentB2BModuleConnectException (接続エラー用Exception)	モジュールパラメータエラー	WARN	E02001	接続モジュールに必須なパラメータにエラーがある	post()時 Error in indispensable HTTP request value.
	電文要求パラメータエラー	WARN	E02002	要求電文にて、30Byteを超えるキーが設定されている	post()時 HTTP request key must be shorter than 30 bytes.
				要求電文にて、102400Byteを超える値が設定されている	post()時 HTTP request value must be shorter than 102400 bytes.
				102400Byteを超える要求電文が送信されている	post()時 The number of HTTP request telegram must be smaller than 102400.
				要求電文にて、10MByteを超える電文が設定されている(電文種別ID: 200利用時)	post()時 The number of HTTP request telegram must be smaller than 10MB.
	電文要求パラメータ固定値想定外エラー	WARN	E02003	要求電文のパラメータに想定外のエラーがある	post()時 HTTP request contains unexpected value.
	証明書エラー	WARN	E02004	post時における、通信時の証明書確認時に発生	post()時 Http request ended with errors.
	決済センター接続エラー	WARN	E02005	プロキシ経由による接続が出来ない場合	post()時 メッセージは、curlにて発生するエラーメッセージを出力
				post時における、通信エラー	post()時 メッセージは、curlにて発生するエラーメッセージを出力
				post時における、応答電文不正	post()時 resultStatus is Nothing.
	応答対応種別エラー	WARN	E02007	結果CSVファイル名の設定にエラーがある	post()時の、エラーチェックにおいて CVS file name error.



## 2 - 接続モジュールの利用について

[ PHP (5系)版 ]

## ■ 設定ファイル

マーチャント単位で設定されるものと、デフォルト値として登録しておくパラメータを設定ファイルに保存しておきます。  
 ファイルはプロパティファイル形式とし、include\_pathに指定しているディレクトリに配置してください。  
 設定ファイルをWebサーバ起動時にキャッシュしている場合、設定ファイル変更時にWebサーバの再起動が必要となります。

No	項目名	パラメータ名	属性	サイズ byte	必須 項目	項目定義	備考
1	クライアント証明書ファイルパス	paygentB2Bmodule .client_file_path	半角英数記号	256	○	クライアント証明書の登録場所	ペイジェントから 提供されたファイル
2	認証済みのCAファイルパス	paygentB2Bmodule .ca_file_path	半角英数記号	256	○	認証済みのCAが含まれている 証明書の登録場所	curl-ca-bundle.crt
3	Proxyサーバ名	paygentB2Bmodule .proxy_server_name	半角英数字	80	△	IPアドレスか、どちらかを設定	
4	ProxyIPアドレス	paygentB2Bmodule .proxy_server_ip	数値	15	△	サーバ名か、どちらかを設定	
5	Proxyポート番号	paygentB2Bmodule .proxy_server_port	数値	4	△	Proxyを使用する場合は必須	
6	デフォルトID	paygentB2Bmodule .default_id	半角英数字	64	△	モール対応	
7	デフォルトパスワード	paygentB2Bmodule .default_password	半角英数字	64	△	モール対応	
8	タイムアウト値	paygentB2Bmodule .timeout_value	数値	3	○	秒数	デフォルト値は35秒
9	ログ出力先	paygentB2Bmodule .log_output_path	半角英数記号	256	○	接続モジュールのログ出力先 指定した場合に通信パラメータを出力	
10	照会MAX件数	paygentB2Bmodule .select_max_cnt	数値	6	○	照会結果の最大取得件数 最大は、2,000件です	

凡例 必須項目 ○:必須 △:条件付必須

※設定ファイルの「paygentB2Bmodule.url.xx」パラメータは変更しないでください。

## 2 - 接続モジュールの利用について

[ PHP (5系)版 ]

### ■ 接続モジュールにおける、クライアント証明書の利用方法

- クライアント証明書ファイル(～.pem)を受取ります。
  - クライアント証明書ファイル(～.pem)を、任意のディレクトリに保存します。
  - modenv\_properties.php の以下の項目に、クライアント証明書の保存先を、Full Path で設定します。  
paygentB2Bmodule.client\_file\_path
- ex) paygentB2Bmodule.client\_file\_path=/user/paygent/certs/client\_certs.pem

### 3 - 接続モジュールの利用について

[ PHP (7系)版 ]

#### ■ 接続モジュールのインストール手順

Composerをご利用できる環境の場合 ... 「Composerを利用してインストール」をご参照ください。

Composerをご利用できない環境の場合 ... 「手動でインストール」をご参照ください。

※ Composerとは、PHPのパッケージ管理ツール・依存性管理ツールです。  
接続モジュールはComposerを利用してインストールすることを推奨しています。

#### Composerを利用してインストール

1. インストールするためのディレクトリを準備します。  
ディレクトリはご利用の環境に合わせて任意の場所に読み替えてください。

No	ディレクトリ(例)	備考
①	/home/paygent/module	接続モジュールをインストールするディレクトリ。
②	/home/paygent/src/ks-connect-module-php7	弊社が提供するks-connect-module-php7.zipを展開して配置してください。

2. ①のディレクトリに、接続モジュールをセットアップするための定義ファイルを作成します。

ファイル名: composer.json

```
{
  "repositories": [
    {
      "type": "vcs",
      "url": "/home/paygent/src/ks-connect-module-php7/"
    }
  ],
  "require": {
    "paygent/connect": "1.0"
  }
}
```

← ②のディレクトリを指定します。

3. ①のディレクトリで、インストールコマンドを実行します。

```
$ composer install
```

以上の手順で、インストールが完了します。

#### 手動でインストール

1. 弊社が提供するvendor.zipを任意のディレクトリに展開します。  
ディレクトリはご利用の環境に合わせて任意の場所に読み替えてください。

No	ディレクトリ(例)	備考
①	/home/paygent/module	接続モジュールをインストールするディレクトリ。
②	/home/paygent/module/vendor	弊社が提供するvendor.zipを展開して配置してください。

以上の手順で、インストールが完了します。

#### 設定ファイルの作成

※ インストール方法にかかわらず必ず作成してください。

設定ファイルを後述するディレクトリに配置してください。  
試験環境用・本番環境用の基本的な項目を設定した雛形を接続モジュールに同梱しております。  
いずれかのファイル名を「modenv\_properties.php」に変更して準備してください。

ディレクトリ	ファイル	備考
vendor/paygent/connect/	modenv_properties.php.sandbox	試験環境向けの雛形ファイル。
src/paygent_module/	modenv_properties.php.live	本番環境向けの雛形ファイル。

## 3 - 接続モジュールの利用について

[ PHP (7系)版 ]

## ■ 接続モジュール(ペイジェントB2Bモジュール)機能で使用するクラスについて

接続モジュールを利用する場合、以下のクラスを使用します。

`vendor/paygent/connect/src/paygent_module/System/PaygentB2BModule.php`

接続モジュールでは、cURL関数を使用しているため、以下の環境が必要です。

- ・libcurlパッケージがインストールされている必要があります。(※1)
- ・PHPのcURLサポート機能を使用するため、`—with-curl[=DIR]` をつけてPHPをコンパイルしておく必要があります。(※2)
- ・libcurlのSSL接続はOpenSSL方式を使用してください。(※3)

※1: libcurl 7.29.0 で動作確認済みです。

※2: DIR は、以下の条件をすべて満たす必要があります。

- ・libディレクトリ、includeディレクトリが存在する。
- ・includeディレクトリには、curlディレクトリが存在し、そのcurlディレクトリにはeasy.hファイルとcurl.hファイルが存在する。
- ・libディレクトリには、libcurl.a という名前のファイルが存在する。

※3: バージョンは「OpenSSL1.0.1」以上である必要があります。

PHP版接続モジュールは以下のバージョンで動作確認済みです。

7.0.8 (OSはLinuxで確認)

サーバーに設定されているOpenSSLは再ネゴシエーションが可能である必要があります。

接続モジュールではクライアント証明書を利用した通信を行なうことで、セキュリティを確保しておりますが

OpenSSLのバージョンによっては、再ネゴシエーションが不可になっている場合があるため、

クライアント証明書での通信において正常に通信ができない場合がございます。

バージョンは「OpenSSL1.0.1」以上である必要があります。

サーバー管理会社様で独自に設定されている場合もございますので、ご確認ください。

接続モジュールの設定、稼動順は以下の通り

どの電文種別IDにおいても、使用方法は同じ

No	設定、実行内容	クラス	メソッド	備考
1	モジュール用パラメータの設定	<code>vendor/paygent/connect/src/paygent_module/modenv/_properties.php</code>	<code>\$default_id</code> <code>\$default_password</code> <code>\$timeout_value</code>	接続ID 接続パスワード セッションタイムアウト値
2	オブジェクト生成	<code>vendor/paygent/connect/src/paygent_module/System/PaygentB2BModule.php</code>	<code>\$p = new PaygentB2BModule();</code>	コンストラクタ PaygentB2BModule オブジェクトを取得 No2以降は、このオブジェクトに対して、処理を実施する
3	オブジェクト初期化		<code>\$p-&gt;init();</code>	PaygentB2BModule オブジェクトを初期化 設定ファイルの読み込みなどを行う
4	処理結果CSVファイル名設定		<code>\$p-&gt;setResultCsv("");</code>	結果CSVファイル名 ※電文種別ID: 027(カード情報照会)、電文種別ID: 201(ファイル決済結果照会)の結果をCSVファイルに出力する場合に使用します。 ※エラーが発生した場合、結果CSVは出力されません。
5	要求電文用引数設定		<code>\$p-&gt;reqPut(key, value);</code>	key: POSTパラメータ名 value: 設定値 (外部インターフェース仕様書を参照ください)
6	要求電文用送信ファイルパス設定		<code>\$p-&gt;setSendFilePath("");</code>	送信ファイルのパス ※電文種別ID: 200(ファイル決済要求)で使います。 詳細は下記「■ファイル送信について」参照。
7	要求電文 POST 処理		<code>\$rsit = \$p-&gt;post();</code>	要求電文を、URLに向けて実行
8	応答電文 処理結果の取得	<code>vendor/paygent/connect/src/paygent_module/System/PaygentB2BModule.php</code>	<code>\$p-&gt;getResultStatus()</code> <code>\$p-&gt;getResponseCode()</code> <code>\$p-&gt;getResponseDetail()</code>	0: 正常 1: 異常

## 3 - 接続モジュールの利用について

[ PHP (7系)版 ]

No	設定、実行内容	クラス	メソッド	備考
9	応答電文 内容を取得 ※結果CSV指定ありの場合を除く	vendor/paygent/connect/src/ paygent_module/System/Payg entB2BModule.php	\$p->hasResNext();	応答電文のレコード存在判定 true: 存在する false: 存在しない
			\$res_array = \$p->resNext();	応答電文のレコードを取得 array型 で返される key: パラメータ名 value: 値

## ■ 電文の結果取得種類

## ① 1レコード単位

1レコードをarrayとして返却する。1件のレスポンスしかない場合でも同様で、操作を統一する。

```
resNext()
hasResNext()
```

項目はarrayからキーを指定して取得する。

処理結果、レスポンスコード、レスポンス詳細はarrayに含めない。これらの値は、③の方法で取得する。

【注意】 電文種別ID: 201 (ファイル決済結果照会) はこちらの取得方法を利用できません。

## ② 複数レコード単位 (CSVファイル出力)

出力レコードが2レコード以上の場合、①の1レコード単位の取得はできない。

出力レコードが1レコードの場合は、①の1レコード単位の取得は可能とする。

【注意】 電文種別ID: 027 (カード情報照会)、電文種別ID: 201 (ファイル決済結果照会) のみこちらの取得方法を利用できます。

## ③ 処理結果取得

処理結果、レスポンスコード、レスポンス詳細は、それぞれgetterを用意する。

1レコード単位で取得した場合も、CSVファイル出力した場合も取得できる。

## ■ ファイル送信について

電文種別IDが200 (ファイル決済要求) の場合は、外部インターフェース仕様書に記載されている各項目を以下のように設定する。

- ・(共通ヘッダ項目) ... reqPut()により設定。
- ・取引種別 ... reqPut()により設定。
- ・取引ファイルデータ ... ファイルのパスを setSendFilePath に設定。

※接続モジュールをご利用の場合、上記のようにファイルパスを指定してのファイル決済が可能です。

取引ファイルデータには指定したファイルの内容が設定されます。

※お客様の環境によってはサーバの最大POSTデータサイズを変更していただく必要があります。

### 3 - 接続モジュールの利用について

[ PHP (7系)版 ]

#### ■ 接続モジュール用パラメータを設定ファイルに設定

基本的な項目はインストール時に既に設定されておりますので、下記例を参考に、枠線で囲まれている部分につきまして、ご利用の環境に合わせて設定してください。

※ ファイルパスは、ご利用の環境に合わせて任意の場所を設定してください。

※ ファイルパスの前にはダブルクォーテーションやセミコロンなどの記号を付けないでください。

※ 以下に示す設定値はサンプルであり、実際のものと異なります。動作環境に合わせて書き換えてご利用ください。

modenv\_properties.php

###クライアント証明書ファイルパス

paygentB2Bmodule.client\_file\_path="/home/paygent/client\_cert.pem"

- ・拡張子「.pem」のファイルを指定します。
- ・試験環境用は、ご案内します試験環境接続キット内にあります。
- ・本番環境用は、ご案内します本番環境接続キット内にあります。

###認証済みのCAファイルパス

paygentB2Bmodule.ca\_file\_path="/home/paygent/curl-ca-bundle.crt"

- ・試験環境接続キットの拡張子「.crt」のファイルを指定します。
- ・本番環境でも試験環境時と同じファイルを利用します。

###プロキシサーバー設定（プロキシサーバーを使用する場合のみ設定）###

paygentB2Bmodule.proxy\_server\_name=

paygentB2Bmodule.proxy\_server\_ip=

paygentB2Bmodule.proxy\_server\_port=0

- ・プロキシサーバーを利用する場合のみ設定してください。

###接続ID、接続パスワードが設定されない場合に使用されるデフォルト値（空白可）###

paygentB2Bmodule.default\_id=99999999

paygentB2Bmodule.default\_password=abcde123

- ・必要な情報はWEBで確認可能です。  
<https://portal.paygent.co.jp/n/manage-m/login.html>  
上記URLの【加盟店管理者サイト】にログインし、  
試験環境用は[システム設定 > システム接続情報 > 試験環境]  
本番環境用は[システム設定 > システム接続情報 > 本番環境]

###タイムアウト値（秒）###

paygentB2Bmodule.timeout\_value=35

###ログファイル出力パス###

paygentB2Bmodule.log\_output\_path="/home/paygent/connectmodule.log"

- ・ファイル名まで指定してください。  
（ファイルパス、ファイル名は任意です）
- ・ファイルは指定されたファイル名で自動作成されます。  
※事前に作成する必要はありません。

###デバッグオプション###

# 0:エラー時のみ出力

# 1:リクエスト/レスポンスをログ出力

# ※本番稼働時は必ず0を設定してください

paygentB2Bmodule.debug\_flg=0

- ・本番運用では0を推奨します。  
リクエスト/レスポンス情報をログに出力する場合は1を設定します。  
※ただし、カード確認番号・カード番号はマスクが  
掛かった状態で出力されます。

###最大照会件数（2000件がペイジェントシステムの最大値なのでそれ以上の値は無効）###

###ファイル処理結果取得（電文種別ID: 201）の場合は関係ない###

paygentB2Bmodule.select\_max\_cnt=2000

###CSV出力対象###

paygentB2Bmodule.telegram\_kind.ref=090,091

###ATM決済URL###

paygentB2Bmodule.url.01=https://module.paygent.co.jp/n/atm/request

###クレジットカード決済URL###

paygentB2Bmodule.url.02=https://module.paygent.co.jp/n/card/request

###コンビニ番号方式決済URL###

paygentB2Bmodule.url.03=https://module.paygent.co.jp/n/conveni/request

###コンビニ帳票方式決済URL###

paygentB2Bmodule.url.04=https://module.paygent.co.jp/n/conveni/request\_print

###銀行ネット決済URL###

paygentB2Bmodule.url.05=https://module.paygent.co.jp/n/bank/request

###銀行ネット決済ASPURL###

paygentB2Bmodule.url.06=https://module.paygent.co.jp/n/bank/requestasp

###決済情報照会URL###

paygentB2Bmodule.url.09=https://module.paygent.co.jp/n/ref/request

## 3 - 接続モジュールの利用について

[ PHP (7系)版 ]

## ① 接続モジュールの利用準備

```
require("vendor/autoload.php"); # {接続モジュールのインストールディレクトリ}/vendor/autoload.phpを指定します。
use PaygentModule¥System¥PaygentB2BModule;
```

## ② 接続モジュールのインスタンス取得 (コンストラクタ)と初期化

```
$p = new PaygentB2BModule();
$p->init();
```

## ③ ペイジェントへの要求をセット

※電文に必要な要求情報を設定 (要求に必要なパラメータをハッシュにして設定)

```
$p->reqPut("telegram_kind", "010");
$p->reqPut("telegram_version", "1.0");
.
.
```

電文種別ID: 200 (ファイル決済要求)の場合は、送信ファイルパスをセット

```
$p->setSendFilePath("");
```

## ④ ペイジェントへ要求を送信

```
$result = $p->post();
```

## ⑤ 要求送信結果を確認

```
if(!($result === true)) {
    # エラーコード取得
    $errorcode = $result
    # エラー処理
    .
    .
}
```

## ⑥ 要求結果を取得

処理結果取得 (共通)

```
$resultStatus = $p->getResultStatus(); # 処理結果 0=正常終了, 1=異常終了
$responseCode = $p->getResponseCode(); # 異常終了時、レスポンスコードが取得できる
$responseDetail = $p->getResponseDetail(); # 異常終了時、レスポンス詳細が取得できる
```

- ・ 1件取得の場合
 

```
if($p->hasResNext()) {
    # データが存在
    $res_array = $p->resNext(); # 要求結果取得
    $payment_id = $res_array["payment_id"]; # 決済ID取得
    # 他、応答情報を取得
}
```
- ・ 複数件取得の場合
 

```
while($p->hasResNext()) {
    # データが存在する限り、取得
    $res_array = $p->resNext(); # 要求結果取得
    $payment_id = $res_array["payment_id"]; # 決済ID取得
    # 他、応答情報を取得
}
```

【注意】 電文種別IDが201 (ファイル決済結果照会)の場合はこちらの取得方法で値を取得することができません。

- ・ CSV出力の場合  
モジュールパラメータの結果CSVファイル名を指定していた場合は指定したパスにファイルが出力されています。

## 3 - 接続モジュールの利用について

[ PHP (7系)版 ]

## ■ 接続モジュールエラーコード表

各種エラー	Error Level	Error Code	ErrorName	OutputTiming	ErrorMessage	
vendor/paygent/connect/src/paygent_module/Exception/PaygentB2BModuleException	設定ファイルなしエラー	WARN	E01001	設定ファイルが存在しないエラー	init()時	Properties file doesn't exist.
	設定ファイル不正エラー	WARN	E01002	設定ファイルにおける設定値のエラー	init()時	Properties file contains inappropriate value.
	CSV出力エラー	WARN	E01004	CSV File 出力エラー	post()時、CSV File出力時	Failed to open CSV file.(ファイルオープン時) Failed to write to CSV file.(ファイル出力時)
	取引ファイルエラー (電文種別ID: 200利用時)	ERROR	E01005	取引ファイル入力エラー	post()時、取引ファイル読込時	Send file I/O error.
				取引ファイルに指定されたパスにファイルが存在しない	post()時、取引ファイル読込時	Send file not found.
その他エラー	WARN	E01901	応答電文の内容解析時等	post()時、応答電文内容解析時等	Not Mutch DataHeaderCount=[XX] DataItemCount:[XX](レコード数不正時)	
vendor/paygent/connect/src/paygent_module/Exception/PaygentB2BModuleConnectException	モジュールパラメータエラー	WARN	E02001	接続モジュールに必須なパラメータにエラーがある	post()時	Error in indispensable HTTP request value.
	電文要求パラメータエラー	WARN	E02002	要求電文にて、30Byteを超えるキーが設定されている	post()時	HTTP request key must be shorter than 30 bytes.
				要求電文にて、102400Byteを超える値が設定されている	post()時	HTTP request value must be shorter than 102400 bytes.
				102400Byteを超える要求電文が送信されている	post()時	The number of HTTP request telegram must be smaller than 102400.
				要求電文にて、10MByteを超える電文が設定されている(電文種別ID: 200利用時)	post()時	The number of HTTP request telegram must be smaller than 10MB.
	電文要求パラメータ固定値想定外エラー	WARN	E02003	要求電文のパラメータに想定外のエラーがある	post()時	HTTP request contains unexpected value.
	証明書エラー	WARN	E02004	post時における、通信時の証明書確認時に発生	post()時	Http request ended with errors.
	決済センター接続エラー	WARN	E02005	プロキシ経由による接続が出来ない場合	post()時	メッセージは、curlにて発生するエラーメッセージを出力
				post時における、通信エラー	post()時	メッセージは、curlにて発生するエラーメッセージを出力
				post時における、応答電文不正	post()時	resultStatus is Nothing.
	応答対応種別エラー	WARN	E02007	結果CSVファイル名の設定にエラーがある	post()時の、エラーチェックにおいて	CVS file name error.



## 3 - 接続モジュールの利用について

[ PHP (7系)版 ]

## ■ 設定ファイル

マーチャント単位で設定されるものと、デフォルト値として登録しておくパラメータを設定ファイルに保存しておきます。

ファイルはプロパティファイル形式とし、include\_pathに指定しているディレクトリに配置してください。

設定ファイルをWebサーバ起動時にキャッシュしている場合、設定ファイル変更時にWebサーバの再起動が必要となります。

No	項目名	パラメータ名	属性	サイズ byte	必須 項目	項目定義	備考
1	クライアント証明書ファイルパス	paygentB2Bmodule .client_file_path	半角英数記号	256	○	クライアント証明書の登録場所	ページントから 提供されたファイル
2	認証済みのCAファイルパス	paygentB2Bmodule .ca_file_path	半角英数記号	256	○	認証済みのCAが含まれている 証明書の登録場所	curl-ca-bundle.crt
3	Proxyサーバ名	paygentB2Bmodule .proxy_server_name	半角英数字	80	△	IPアドレスか、どちらかを設定	
4	ProxyIPアドレス	paygentB2Bmodule .proxy_server_ip	数値	15	△	サーバ名か、どちらかを設定	
5	Proxyポート番号	paygentB2Bmodule .proxy_server_port	数値	4	△	Proxyを使用する場合は必須	
6	デフォルトID	paygentB2Bmodule .default_id	半角英数字	64	△	モール対応	
7	デフォルトパスワード	paygentB2Bmodule .default_password	半角英数字	64	△	モール対応	
8	タイムアウト値	paygentB2Bmodule .timeout_value	数値	3	○	秒数	デフォルト値は35秒
9	ログ出力先	paygentB2Bmodule .log_output_path	半角英数記号	256	○	接続モジュールのログ出力先 指定した場合に通信パラメータを出力	
10	照会MAX件数	paygentB2Bmodule .select_max_cnt	数値	6	○	照会結果の最大取得件数 最大は、2,000件です	

凡例 必須項目 ○:必須 △:条件付必須

※設定ファイルの「paygentB2Bmodule.url.xx」パラメータは変更しないでください。

### 3 – 接続モジュールの利用について

[ PHP (7系)版 ]

#### ■ 接続モジュールにおける、クライアント証明書の利用方法

- クライアント証明書ファイル(～.pem)を受取ります。
- クライアント証明書ファイル(～.pem)を、任意のディレクトリに保存します。
- modenv\_properties.php の以下の項目に、クライアント証明書の保存先を、Full Path で設定します。  
paygentB2Bmodule.client\_file\_path  
  
ex) paygentB2Bmodule.client\_file\_path=/user/paygent/certs/client\_certs.pem